様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：３２６２１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０３２１

研究課題名（和文）１９世紀イギリス小説における「違法性」の表象の分析

研究課題名（英文）An Analysis of the Representation of Illegitimacy in the Nineteenth-century British Novel

研究代表者
永富　友海（NAGATOMI, TOMOMI）

上智大学・文学部・教授

研究者番号：６０３０５３９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,200,000円、（間接経費）　960,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ヴィクトリア朝社会において、いわば「必需品」でありながら、時代のモットーである「道徳」や「お上品さ」に抵触する厄介な存在――「売春婦」と「私生児」に焦点を当てている。その矛盾を孕んだ存在は、正典小説において後景に留められがちでありながら、実はテクストを支える影のイデオロギーとして機能している。彼らの存在／不在が、小説において再現＝表象される際に働く力の動きを跡付けることによって、19世紀イギリスにおけるキャノンの小説が持つ別の側面をあぶりだし、従来の研究において欠落していた新しい分析の視座と読みの可能性を提示した。

研究成果の概要（英文）：This project focuses on the "illegitimacy", that is, the fallen woman, especially prostitutes, and illegitimate children, whose very existences are problematics in that they are necessities according to the sexual double standard in the Victorian era while running afoul of the middle-class domestic ideal of respectability. Illegitimate and contradictory, they are hardly foregrounded in the Victorian major novels, but undoubtedly serve as pedestal plots under the surface of the texts: prostitutes and illegitimate children are the other side of the coin of the Angel in the House, one of the strongest Victorian ideal and ideologies. Investigating the types of power and how they are exercised when the presence/absence of the "illegitimacy" is represented in the texts, I explored the hidden sides of the Victorian major novels, thereby opening up the possibilities of the original viewpoints of analysis and readings.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学　　英米・英語圏文学

キーワード：売春婦　私生児　堕ちた女　違法　家庭　19世紀イギリス小説

１．研究開始当初の背景

(1)　研究代表者はこれまで一貫して19世紀イギリス小説を「結婚と家族」という視点から読み解く作業を積み重ねてきた。19世紀英国小説のプロットの根幹にある結婚とは、他者を取り入れることで成立する制度であり、その他者性をいかに自然化するかという課題から逃れることはできない。その自然化の戦略を読み解くことによって、個々の小説テクストが担う文化的・社会的言説としての独自性を指摘することが可能になると考える。

(2)　そのスタンスから、正典作品、マイナー作品をとりまぜた 19 世紀英国小説を分析するにあたり、これまで主としてふたつの切り口を設定してきた。

①　従兄弟・姉妹という血縁関係――19世紀英国小説に頻出するcousinsは、血縁でありながら結婚が認められているという意味で、身内と他人のあわいに立つ重要な存在である。

②　亡妻の姉妹、亡夫の兄弟――多くの場合、血縁関係がないにも関わらず、19世紀イギリスにおいては、彼／彼女との結婚は禁じられており、その意味で従兄弟・姉妹と相似形を成す。

③　相続のプロット――結婚のプロットが 19 世紀英国小説のいわば横軸を形成しているとするなら、縦軸を成しているのが相続のプロットである。主要な小説の多くが、結婚だけではなく、相続人である男子の誕生もしくはその可能性の示唆で幕を閉じている点は見逃せない。

結婚と相続の言説をまず歴史と法律の流れのなかで跡付け、そのうえでそれらの言説が小説の言説とどのようなレトリックにおいて共鳴しているかを探り、そこに潜むイデオロギーをあぶりだすという作業を行ってきた。

２．研究の目的

(1)　上記の研究はたしかにヴィクトリア朝において見逃すことのできない国家的志向――植民地の問題を棚上げしているようにみえるかもしれない。しかし研究代表者はそのことに無自覚であるわけではなく、植民地と外国人表象に視点を向ける前に、まずは内なる他者に焦点を合わせ、英国の内部で、結婚という制度において、身内／他者のレトリックがいかに行使されているかを見極めようというものである。

(2) この研究の締めくくりとして、本研究では「違法なるもの」の表象分析を試みた。具体的には「堕ちた女」、そのなかでも特に「売春婦」、そして「私生児」の表象に焦点を絞った。「売春婦」と「私生児」が、ヴィクトリア朝の中流階級にとっての理想であったrespectability=「お上品さ」の裏面にあることは広く了解されている。にもかかわらず、前者については歴史研究の範疇を出ることはなく、一方後者の「私生児」に関しては、特定の作家のセンチメンタリズムを持ち出すことで良しとするといった具合に、確固たる方法論が確立していない状態での作品論が大半であると言ってよい。だが血縁関係にありながら、法的にその存在が認められていない「私生児」と、ヴィクトリア朝の紳士にとっての性の捌け口であった「売春婦」は、まさに研究代表者の調査研究の核を成す「身内と他人のあわいに立つ者」であり、血縁と類縁の連結点に立つ「見えない存在」として計り知れない重要性を帯びている。小説における彼らの表象、あるいは表象の不在の分析をおこなうことによってようやく、「結婚と家族」という観点から 19 世紀イギリス小説読解の新たな可能性を示すという研究代表者の目的が達せられたことになる。

３．研究の方法

(1)　「売春婦」と「私生児」の歴史的意味づけを確認する作業から着手した。

①まず「私生児」に関しては、1834年の救貧法改正案のなかの私生児についての条項をめぐる言説の分析をおこなった。史料の収集については、国内の大学図書館およびロンドンのブリティッシュ・ライブラリ、ニュースペーパー・ライブラリにおいて集中的におこなった。

②「売春婦」については19世紀イギリスにおける最大の社会運動、女性運動のひとつである「伝染病法」に焦点を当てた。その際に、英国の売春婦の歴史研究のなかで古典的名著としての位置を占めるジュディス・R・ウォーコウィッツの『売春とヴィクトリア朝社会』を手掛かりとして必要な歴史資料の収集をおこなった。

(2)　(1)の作業を経たうえで、ウォーコウィッツの研究が提示する、売春婦をめぐるさまざまな記号を小説分析に効果的に生かすために、新歴史主義という方法論に沿って、M・E・ブラッドン、ディケンズ、ハーディのテクスト分析を試みた。

①　ハーディの『カースタブリッジの町長』では、ヒロインであるエリザベス＝ジェインの「私生児」としての造形、そして彼女のダブルとして登場するルセッタの付与された「売春婦」を連想させる表現、この両者が、当時の「私生児」「売春婦」の言説とどのように響きあうかを探ることによって、このテクストを支える illegitimacy というイデオロギーの存在をあぶりだした。

②　正典性の高いテクストに比べて、1860年代に人気を誇ったセンセーション・ノヴェルの場合は、fallen woman や illegitimate childrenの存在が目につきやすい。転覆的な要素を孕むと評されることの多いこのジャンルの小説が、たとえば同時代のディケンズ

の小説（センセーショナリズムの要素も持ち合わせる）と比較した場合、両者を結ぶ結節点、両者を分かつ分岐点はどこに求められるのか、それを探ることによって、ヴィクトリア朝小説を成立させる構造を明らかにし、同時に正典性をめぐるイデオロギーのありかを明らかにしようと試みた。
③　ヴィクトリア朝を代表するディケンズは、家族を描く作家であると考えられがちであるが、彼の描く理想の家族とは往々にして血縁関係にはない者同士の寄せ集めから成る擬似的家族である。そして彼の場合も、血縁関係による家族の結びつきは、illegitimacy という要素によって強く裏打ちされている。擬似的家族の成立は、illegitimacy という要素をいかに包摂、もしくは排除することによって達成されるのか、そこで用いられている血縁／他人のレトリックはいかなるものであるかを探ることにより、ディケンズの正典性を支えるイデオロギーのありかを突き止めようと試みた。

４．研究成果
(1) ３で述べた方法論に基づいた調査、史料収集、テクスト分析は、上智大学図書館を通して、国内の大学図書館から取り寄せた多数の複写資料、貸借図書、また実際に訪問した大学図書館（名古屋大学、同志社大学、同志社女子大学、奈良女子大学等々）での貴重な複写資料を得ることによって可能となった。

(2)　夏期、春季休暇を利用して、ロンドンのブリティッシュ・ライブラリ、ロンドン大学セネット・ライブラリ、イースト・アングリア大学図書館で、日本では入手不可能な史料の収集をおこなった。

(3)　ロンドン大学で開催される Victorian Popular Culture の年次会、NAVSA(North American Victorian Studies Association) 主催の学会（The Global and the Local: 2013 年 6 月 3～6 日)、Jane Austen Society Study Day（2014 年 2 月 15 日）といった海外の学会に参加することで、日本の英文学研究ではいまだとりあげられないヴィクトリア朝のマイナー作家たちの情報、文化研究の動向を学び、また参加者との意見交換を経て、研究代表者の論を重層的に展開するための例証を多数得ることができた。

(4)　(1)(2)で得た史料、(3)で得た知見を活用し、本研究では３本の主要論文を完成した。
①　トマス・ハーディの『カースタブリッジの町長』は、テクストの比較的最初のあたりに 18 年間の空白がある。その空白(=silence) に注意が向きがちであるが、実はそれとは別の種類の重要な silence（＝空白）も存在し、それがこのテクストのひとつの重要な特性となっている。Silence、すなわち主要人物であるはずのエリザベス＝ジェイン、彼女と結ばれて、最終的には彼女の（義）父であるヘンチャードにとって代わり、カースタブリッジの町長の地位に上りつめるファーフレー、そしてエリザベス＝ジェインのダブルとして設定されていると考えられるルセッタの語りが、明らかに意図的な制限のもとにある、つまり知っているはずの重要な情報を発話しないという傾向が見出せるのである。この重要な情報とは、エリザベス＝ジェインの出自、つまり私生児であることや、ルセッタの経歴（fallen woman としての過去）と密接に関係している。換言すれば、この小説は彼女たちの illegitimacy なくしては成立せず、また同時にその illegitimacy のあからさまな表象を許さないことで成立しているのである。
　問題は、エリザベス＝ジェインとルセッタのダブルの関係が、負の要素を抱えた者同士の間で取り結ばれているという点であり、ここにハーディの独自性があると考えられる。ルセッタをめぐる曖昧な言説が、当時の売春婦の言説と交差し合っていることを指摘し、その負性が、エリザベス＝ジェインの私生児としての負性を打ち消す方向で機能しているという絡繰りを明らかにすることによって、『カースタブリッジの町長』というテクストの特性を浮き彫りにした、オリジナルな読解を導き出すことに成功した。
　この議論の原形は 2010 年 10 月にフランスのリヨン大学で開催されたハーディ学会で発表したが、その後修正を加え、2013 年に当学会の査読を経て、オンライン上で発表された。

②　Ｍ・Ｅ・ブラッドンの『レイディ・オードリーの秘密』は、センセーション・ノヴェルに頻出する、複数の罪を重ねる女性をヒロインとし、まさしく fallen woman を中心として物語が進行する。このテクストの最大の見せ場はエンディングにおいて見出され、ヒロインの罪は白日のもとにさらされることなく、彼女は遺伝としての狂気の血が流れているという名目のもと、外国の癲狂院に送られる。批評の大勢は、果たしてこのヒロインが狂人であったのか否かに議論の争点を集中させている。たしかに女性を狂気の言説に取り込んでしまうという戦略は、19 世紀英国小説に限らず、広く文学作品にみられる手法である。だがその点を指摘し、作者の男性中心主義を非難するだけでは十分な作品分析になり得ているとは言えないだろう。研究代表者はここからさらに一歩進んで、『レイディ・オードリーの秘密』に見られるレトリックを抽出し、そのレトリックが他のセンセーション・ノヴェル（たとえばウィルキー・コリンズの作品）や、また正典性の高い同時代のディケンズの作品においてどのように機能しているかを詳細に検討した。それは具体的には類似と同一のレトリックである。このレトリックは実は、とりわけヴィクトリア朝

小説における兄弟・姉妹の関係性においてしばしば用いられる。コリンズの『白衣の女』においては、ヒロイン、ローラと、「私生児」であるアンという義理の姉妹をすり替えることによって、やはりふたりを狂気の言説のなかに取り込もうとする戦略が見て取れる。

一方ディケンズの『オリヴァー・トウィスト』では、「私生児」であるオリヴァーは最終的に、父の友人であるブラウンロー氏、家政婦のベドウィン夫人と、幸福な（擬似的）家族関係を取り結ぶ。その関係は、オリヴァーの父親と正妻、嫡出である息子のモンクスからなる血縁の不幸な家族と対比的に描かれる。ここで見落としてならないのは、ふたつの家族に登場しないオリヴァーの母親（fallen woman）である。この亡くなった母の代わりに登場するのが彼女の妹、すなわちオリヴァーの叔母にあたるローズである。しかしローズは、fallen woman であるオリヴァーの母親を想起させることを避けるかのように、オリヴァーから「姉」と呼ばれるのである。

このように類似と差異のレトリックを兄弟・姉妹という血縁の関係性のなかに定め、親族関係の布置をさまざまに入れ替えたりずらしたりすることで、小説がいかに結婚と相続のプロットを編み出してきたかを複数のテクストを例にとって分析することにより、19 世紀イギリス小説のひとつの決定的な見取り図を描き出すことに成功した。この論文は、上智大学文学部の紀要『英文学と英語学』において発表した。

③　トマス・ハーディはヴィクトリア朝の最後を飾る小説家のひとりとして、19 世紀英国小説の流れをくみつつも、彼の作品はそれまでの小説作法から逸脱する方向性を孕んでいる。その逸脱は、しばしば illegitimacy あるいは結婚の破綻という形をとる。『帰郷』において、奔放なヒロイン、ユーステイシアは、fallen woman の系譜に属し、村の人々の間で「魔女」の言説に組み込まれ、溺死という悲惨なエンディングを迎える。fallen woman に幸福な未来は与えないという意味で、この作品はヴィクトリア朝小説の文法に抵触しない。一方主人公のクリムの人生は、いわば破格な文法によって紡がれる。彼とは異なる奔放なユーステイシアとの結婚が破綻した後、従来の正典小説であれば可能であったかもしれない、類似を孕む従妹との再婚を、彼は選ばない。

このテクストの決定的な新しさは、親子関係の定義にある。類似と差異のレトリックが夫婦と従兄妹に適用されるという点で他の 19 世紀小説と軌を一にしながら、クリムとユーステイシアが filiation の関係（親子関係）を取り結ぶのは、実質上、エグドン・ヒースという荒野である。その意味において、『帰郷』というテクストは、filiation から affiliation への移行を実践しているのであり、ヴィクトリア朝小説の終焉は、血縁である親子関係の変容において達成されると考えられるのである。この議論は、英宝者から出版された『英国小説研究』No.24 において発表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）

① Tomomi Nagatomi、The Narrative Silence in *The Mayor of Casterbridge*, Revue en lign FATHOM、査読有、2013
http://fathomhardy.fr/spip.php?rubrique6&lang=fr

② 永富　友海、春の嵐（翻訳）、英文学と英語学、上智大学文学部紀要、査読無、No.49、2013、31-151

③ 永富　友海、『春の嵐』についての二、三の覚書、英文学と英語学、上智大学文学部紀要、査読無、No.49、2013、153-157

④ 永富　友海、*The Return of the Native* にみる近親性の変容――filiation から affiliation へ、英国小説研究、英宝社、査読無、No.24、2012、103-136

⑤ 永富　友海、身内のレトリックと、結婚、相続の（不）可能性――『レイディ・オードリーの秘密』を中心に、英文学と英語学、査読無、No.48、2012、15-39

〔学会発表〕（計　0　件）

〔図書〕（計　2　件）

① 永富　友海　他、早川書房、国境の向こう側（共訳）、2013、101-129

② 永富　友海　他、早川書房、見えない日本の紳士たち（共訳）、2013、87-104, 145-200

６．研究組織

(1)研究代表者

永富　友海（NAGATOMI TOMOMI）
上智大学・文学部・教授
研究者番号：60305399